

インドに原発を売るな！学習交流会 ～アミルタラジ・スティブン氏を囲むつどい

コアネット事務局次長 村地秀行



- 8月5日（土）、東京・水道橋の「スペースたんぼ」において、「インドに原発を売るな 学習交流会～アミルタラジ・スティブン氏を囲むつどい」を開催しました。この交流会は、首都圏で集会や国際シンポジウムに参加した後、福島原発被災地に2回目の取材訪問を果たしたスティブン氏が今回の来日の成果を報告し、締めくくる場として、「日印原子力協定国会承認反対キャンペーン」の協力の下、コアネットが主催しました。15名程度のご参加をいただきました。
- まず、インド南部・クダンクラムなどにおける原発に反対するインド民衆の闘い、モディ政権による苛酷な弾圧、それに福島取材時の経験について、ご自身の撮影した数々の写真を交えて語っていただきました。
- その後、議論の中では、スティブン氏が当初、福島医科大の取材を希望していたという事実が話題になりました。インドの運動圏で活動しているスティブン氏の耳にさえ、まず入ってくるフクシマの情報は体制側の「安全神話」であったということです。インドの人びとに対して、運動側が福島原発事故の影響に関する正確な情報をしっかりと伝えていくことの重要性を会場全体で確認することになりました。
- 今回の来日では、スティブン氏が所属するインドの反核運動全国連合（NAAM）からメッセージが寄せられ、インドの運動との新たな連絡ルートが得られたこともあり、日印原子力協定が発効した下で、今後のコアネットの取り組み、ひいては日本とインドの反核・反原発運動の連帯強化に向けて意義のある来日であったことを確認して交流会を終えました。